

不屈の大地

Vol.13

Build Back Betterの軌跡



平成26年(2014年)・広島県 広島・豪雨による土砂災害からの復興

平成26年(2014年)8月19日から20日にかけて広島県を襲った記録的な大雨は、広島市で166件の土砂災害を引き起こしました(土石流107件、がけ崩れ59件)。この災害による広島県の被害は、死者77人、負傷者68人、住宅全壊179棟、住宅半壊217棟、床上・床下浸水は4,183棟に上りました(平成28年6月24日現在。消防庁「8月19日からの大雨等による広島県における被害状況及び消防の活動等について(第47報)」)。

特に集中豪雨が発生した広島市安佐南区から安佐北区に至る地域では、鉄道やライフラインに甚大な被害が発生しました。広島県におけ

る被害額は一般資産などで総額415億円、林野関連で68.5億円に上りました。

こうした大規模な土砂災害に対して、国や広島県、広島市は協力して応急復旧連絡会議を設置し、復旧・復興に取り組みました。まちの将来像を踏まえた「復興まちづくりビジョン」を平成27年3月25日に策定し、①砂防堰堤等の整備、②市による避難路の整備、③雨水排水施設等の整備、④住宅再建の支援の4つの柱を掲げました。

広島県では災害から命を守るために、ハザードマップの見方や災害危険箇所・避難場所等の情報を分かりやすくポータルサイトで伝える「み

んなで防災」県民総ぐるみ運動を展開しています。

広島市は被災地の町内会の要請に応じて弁護士や税理士などの専門家の派遣等を行うとともに、職員もワークショップの運営をサポートするなど地域と一体となったまちづくりに取り組んでいます。また、各地域の自治会でも安否確認システムの開発を行い、当時の教訓を活かした「備え」を展開しています。



広島市で発生した土砂災害等の様子

Build Back Better とは

「Build Back Better (より良い復興)」とは、2015年3月に宮城県仙台市で開催された「第3回国連防災世界会議」の成果文書である「仙台防災枠組」の中に示された、災害復興段階における抜本的な災害予防策を実施するための考え方です。

本シリーズでは、災害が発生した国内外の事例を紹介し、過去の災害を機により良い街づくり国土づくりを行った姿を紹介いたします。